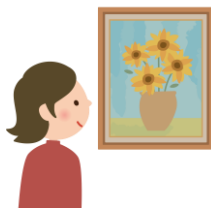


♪ 2021年度 **poco a poco** ♪

Nr. 13 2021年10月4日(月) 文責:プファイル・辰巳

秋の楽しみ方は?

秋分の日も過ぎて、秋真っ盛りとなりました。今週末は学校祭。それが終わると秋休みが待っています。みなさんの「秋」はどんな秋になるのでしょうか。芸術か読書か、はたまた食欲の秋か。公園や山々の木々も色づいてきました。それぞれの秋をぜひ楽しんでください。



体育館では、学校祭に向けて、先週から舞台を使っでの練習が始まりました。本番でのみなさんの晴れ姿が楽しみです。些細な失敗など気にせず、舞台上で演技をしたり

発表したりする楽しみを感じてください。そして、舞台発表をやり切った後、拍手をもらう時の喜びをぜひ経験して欲しいと思っています。舞台袖から応援しています!

音楽こぼれ話 < 没後100年を迎える作曲家

フンパーディンク と サン=サーンス >

今年没後100周年を迎える有名な作曲家が二人います。一人はドイツの作曲家エンゲルベルト・フンパーディンク、もう一人はフランスの作曲家カミーユ・サン=サーンスです。

フンパーディンクの作品で一番有名なのは、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」です。子どもたちにもおなじみのメルヘンに、ワーグナーの流れを汲む壮大な音楽がついたオペラで、クリスマスの前後によく上演されます。このフンパーディンク、1890年から1900年まで当地フランクフルトのコンザヴァトリウム(音楽上級学校)で教鞭をとっていました。その後ベルリンに住まいを移し、1921年(9月27日)に心臓発作

のため亡くなったそうです。67歳でした。

サン=サーンスはフランスの作曲家であり、オルガニストとしても活躍していました。フランス人作曲家でありながら、バッハやモーツァルト、ベートーヴェンなどドイツのバロック・古典派の作曲家の作品に非常に精通していたと言われています。作風はドイツの緻密な構築性とフランス風の優美さを併せ持つ、古典的フランス精神を基調とした作曲家と言われています。オペラ「サムソンとデリラ」や得意としたパイプオルガンのための曲なども有名ですが、日本人に最も知られている作品は、組曲「動物の謝肉祭」の中の「白鳥」ではないでしょうか。水面を滑るように優雅に泳ぐ白鳥の姿をチェロで演奏する旋律は有名で、教科書の鑑賞教材としてもしばしば取り上げられます。

このサン=サーンスが亡くなったのも1921年(12月16日)でしたが、生まれはフンパーディンクよりも早く、亡くなった時は86歳でした。作曲家としてはかなりの長寿ですね。作曲家、ピアニスト、オルガニスト、指揮者と多彩な能力を発揮し、国際的にも大活躍したパリ生まれのサン=サーンスが亡くなったのは、アルジェリア旅行中だったそうです。

没後100周年ということで、今シーズンの演奏会で、この二人の作曲家の作品がプログラムに取り上げられることも多いのではないかと思います。

ちょっとだけ 演奏会情報 ~ アルテオーパー・10月の演目より ~

- 10月14日(木) アルテオーパー・大ホールにて
- 15日(金) HR シンフォニーオーケストラの演奏
- 20時~ バーバーの交響曲第1番, ブラームスの交響曲第2番ほか
- 10月17日(日) アルテオーパー・大ホールにて
- 午前11時~ フランクフルト・オペラ・ムゼウム・オーケストラの演奏
- 18日(月) メンデルスゾーンのピアノ協奏曲 第1番
- 20時~ シューマンの交響曲第3番「ライン」ほか
- 10月29日(金) アルテオーパー・大ホールにて
- 20時~ エリザベス・レオンスカヤのピアノリサイタル
- シューベルトのピアノソナタ第19, 20, 21番